

[055] 語文研究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/10218>

出版情報：語文研究. 55, 1983-05-05. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：



編集後記

改修工事も完了して、三月末、再び北門のキャンパスに帰ってきました。外観は面目一新と迄は行かぬものの、確かに見栄えは良くなり、廊下を歩いても壁はあく迄白く、おどろく／＼しい落書きの類も消え失せた反面、研究室の廊下側の窓はなくなり、余分な所へ壁がはり出したり、天井が下ったり、とかく思うがまゝの住家というものは実現し難いもの。しかし本当のところ建物など、どうでも宜しいので、まづは中味の如何が問われねばならぬこと、本誌もまた然りであります。黙って頁を御開き下さい、と申上げたい所ですが、叔新刊紹介の一篇を除いては院生の二三年次生のみでまかなった月号は、点のからい先輩諸姉の御意に叶いますかどうか。

奥村先生の東南アジア御滞在も既に半年を超し、夏休み開けには御元氣な御顔を拝見出来る筈とは言うものの、赤間の里にいまそがり、何かと心丈夫に思わせて戴いていた今井先生が、この二月から急に韓国へ一年間の御出講、その上、春日先生は四月から東京の帝京大学へ御赴任という事で、それぞれ御三方の御元氣さは、勿論慶賀の至りではあります。追野氏と二人若い者（一寸、虫の良い表現ですが）だけ、とり残された俊寛よろしく、何となく顔色もさえず、老け込んだような気もするので、敢えて新鮮な顔触れでのごぞんだ本号です。

（中野記）

執筆者紹介

後藤 康文	九州大学大学院（修士課程）
久保田 啓一	九州大学大学院（修士課程）
松本 常彦	九州大学大学院（修士課程）
古田 雅憲	九州大学大学院（修士課程）
大橋 百合子	九州大学大学院（修士課程）
石川 八朗	九州工業大学教授

規 定

- 一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るが、それ以外の方に投稿を依頼することもある。
- 二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三十枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。
- 三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
- 四、刊行は年二回（春・秋）を原則とする。
- 五、刊行会費は現在年額維持会員三千円（各号二部配布）、通常会員千五百円（各号一部配布）とする。
- 六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
- 七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。